

第5回 伏見区基本計画策定委員会 摘録

日時：平成22年12月10日（金）

午前10時～11時30分

場所：伏見区総合庁舎4階大会議室

1 開会

伏見区長：皆様方のご尽力により、伏見区基本計画策定もいよいよ大詰めの会議を迎えた。これまで区民の皆様による住民円卓会議を6地域で、延べ17回積み重ね、幅広い層を対象としたアンケート等、さまざまな形でご意見を頂戴してきた。素案に対するパブリック・コメントや計画の愛称募集にも多くのご意見をいただいた。区民の皆様のご熱い思いを、次期基本計画に十分反映させていきたい。

来年度は次期基本計画の初年度であると同時に、伏見区政80周年という大きな節目の年でもある。次期基本計画に掲げた将来像を実現するため、計画策定後もしっかりと検証し、推進していきたい。委員の皆様方には最終案に対して忌憚のないご意見を賜ると同時に、計画策定後も引き続きのご支援、ご協力をよろしくお願いしたい。

座長：本日は基本計画の中間案に対して区民の方からいただいたパブリック・コメント、及び最終答申案をご確認いただきたい。加えて基本計画の愛称名を応募案から決定することになっている。

最初に、別件だが私の関わっている取組についてご紹介したい。

お手許の別紙をご覧ください。以前は国土庁により国土計画として全国的な計画が行われてきたが、国土庁がなくなり、現在は圏域ごとに広域地方計画として考えることになっている。私が委員として入っている近畿圏広域地方計画の学識者会議で、従来なかった独自の提案として「はなやか関西～文化首都年～」を決定した。毎年1つテーマを決め、関西各地の地域資源を連携させて国内、世界へアピールしていくことになった。

来年度のテーマはお茶に決まった。京都や大阪、産地の宇治、相楽郡にある茶の文化を売り出すが、最終テーマを決める議論のなかで日本酒の文化が大事という議論をした。次年度以降、日本酒が取りあげられる年には、伏見区にも非常に大事な事業になると思われる。

今週12月6日に近畿地方整備局の副局長と近畿運輸局の観光部長に伏見に来ていただき、十石舟に乗っていただいて伏見の酒文化の紹介をさせていただいた。近い機会に、伏見区も灘等、関西圏の酒の産地と連携しながら事業をしていくということも心に留めておいていただきたい。

2 議題

(1) 素案に対するパブリック・コメントの結果について

・事務局より資料1の説明

座長：ご質問、ご意見等お願いしたい。

委員：的確なコメントがそれぞれキーワードとして入っている。これをどう生かしていくか。これまで議論されてきたことと重なる点も多い。

座長：ほかに特段ご意見がなければ、次に進みたい。

(2) 伏見区基本計画（案）について

・事務局より資料2・3の説明

座長 : 本日もご了解いただければこれを答申させていただくことになる。
伏見区基本計画は京都市全体の基本計画と矛盾があってはいけないが、伏見区独自の提案を盛り込んでいい。京都市関係各局と調整し、パブリック・コメントの提案を受けて文言を修正した。例えば計画案のp20, ③の具体的な取組例の「酒造業など地場産業の振興」等は伏見区として強く打ち出そうとしているものだ。
今日、確認いただきたい1つ目は、p36の重点戦略「融合プロジェクト」だ。伏見区基本計画案の1つの目玉となっているプロジェクトで、とくに「絆づくり」を今後10年間、伏見区を挙げて進めたい。2つ目はp40の「計画の実現にむけて」の進捗の確認体制だ。基本計画が策定された後、計画の進捗状況を確認する委員会をつくり、進み方のチェックや市民活動サポートチームの動き等の報告をすることになっている。p11の伏見区の将来像では「伏見ですむ」というキーワードを3つの基本目標とともに図示している。今後、伏見区基本計画の説明をする際、この図が使われるのでこれに関しても確認していただきたい。
p1の「はじめに」は伏見区基本計画策定委員会の名前で、この文章を出している。委員全員が責任を分かち合ってもらえるものになる。この文言でいいかどうか確認していただくため、事務局から読みあげてもらいたい。

・事務局 資料3のp1「はじめに」の読みあげ

座長 : 経過をきちんと収めていただいている。「はじめに」の文言、及び重点戦略である融合プロジェクト、今後の進め方に関して、あるいは全般的なところからのご意見をいただきたい。

委員 : 今後10年間、区がどうしていくかということで、偏らないようさまざまなことが盛り込まれているが、とくにどれが将来大事なのかが読んでいてわかりにくかった。実際にはこれを基にしてリーフレット等をつくり、2年に1回程度更新をしながら、重点的なものを示していくといいのではないか。
地域別の記載では地域が6つに分かれている、このように地域を分けなければならないことが伏見の現状を表している。各地域で取り組む課題を解決していくことにより、将来伏見全体で1つのまとまりがある計画にできればいいという感想をもった。

委員 : 実際にこの計画を実施するために、お題目だけではなく必要なことがある。その方法論について述べたい。
コミュニティの希薄化や自治会離れが大きな問題となっている。マンションだと自治会に丸ごと未加入ということがあるが、向島ニュータウンでは、市営住宅では100%自治会に加入してもらっている。本来、自治会は任意加入だが、水道、光熱費等の共益費を自治会が集め、一緒に自治会費を払ってもらうことで自動的に加入する形になっている。そのような仕組みをつくってほしいのではないか。
中国帰国者の方が向島の市営住宅に多数入居してこれらるが、日本人として日本名で入居されるものの、日本語が不自由なため、入ってきた人も自治会も戸惑う。そうした実態は放置されている。もっと中身をしっかりと捉えて施策を進めていただきたい。
京都文教大学が近くにあって学生等は近鉄向島駅を利用しているが住所としては宇治市になる。したがって、大学は宇治市と密接に連携しているが、大学の先

生や学生たちは、団地研究会等で向島についてもよく研究していただいている。われわれ住民と大学とは意思疎通があるが、行政も大学との関係を密接にもってもらい、結びつきを強固にさせていただきたい。

大学の学生は卒業するとすぐ替わっていくし、先生方も転勤がある。継続してやるべき問題が途切れてしまうので、うまく関連づけて、継続できないかという思いがある。実践するためには継続した運動としてしっかり結びついておく必要があると考える。

伏見区長 : 年間を通じて地に足のついたさまざまな行動を展開していただいで感謝している。京都文教大学の件について、関連する話を事務局から補足させていただく。

事務局 : 重点戦略に「絆づくり・プロジェクト」を掲げている。京都市が行っている市民活動の支援機関に加え、京都文教大学等の大学も含めたさまざまな団体と連携を取りながら知恵の共有をし、住民の方々の活動をサポートしていく手法を考え、実践に移していくことを進めていきたい。

座長 : 区・市境を越えてという思いをぜひ継承していただきたい。
市営住宅の入居に関する話は、p22の「多文化共生社会の実現に向けた交流の促進」のなかで具体的な取組例として挙げられているが、ご指摘いただいたところまで具体には書かれていない。

区長 : 市では住宅室が市営住宅の入居の対応をしているが、地域の戸惑いは相当あると思われる。関係各局に話をして連携を密にしていきたい。

委員 : 補足になるが京都文教大学は、現在、多文化共生に向けての取組が盛んだ。
p22の「多文化共生社会の実現に向けた交流の促進」の文章は、伏見区でなくほかの区にそのまま置き換えられるような文章になっている。伏見区は京都市の区のなかではもっとも外国籍市民が多く、しかも中国帰国者も集中している。文部科学省が進めている留学生の受け入れに市も協力しているが、伏見は市営住宅の空きが多いため今後の増加が予測される。実際にいろいろな地域でトラブルも聞いているが、京都市の「国際化推進プラン～多文化が息づくまちを目指して～」のようなものをつくって、伏見区独自の取組を積極的に進めるということがあっていいのではないか。

座長 : 具体的に書くこととして何かないだろうか。

委員 : 例えば「多文化がいきづく伏見のまち・多文化共生プラン」のようなものが盛り込めないか。伏見ならではもっと積極的な言葉があってもいいのではないかと考える。

座長 : p36やp39の「絆づくり・プロジェクト」のなかに多文化共生の問題を少し強めて書くことで、ご指摘を受け止めたい。

委員 : p36の図はよくできていてわかりやすいが、「伏見ですむ人」が出てこない。「伏見ですむ人」が主体だ。それを入れるようお願いしたい。

「はじめに」の2段落目の5行目、「私たちがこれからも伏見のまちに住み続けることを前提に」の「前提に」は言葉が硬い。「私たちがこれからも伏見のまちに住み続けることを願い、次の世代に引き継ぐ思いを込めて」としてはどうか。

最後の段落の1行目、「伏見で住み、働き、活動するすべての主体が、まちづくりを担う主人公として」の「主体」を「人」に、「主人公」を「主体」としたほうがスッと入ってくるのではないかと。問題がなければそのようにしていただきたい。

座長 : 2番目と3番目のご意見は事務局と検討させていただく。
1番目のご意見は、原案では「地域で活動する人」のなかに住んでいる人が入っているという思いで書いている。「地域に住む人・地域で活動する人」にして入れることをご指摘を受け止めたい。

委員 : よくできている。10年で本当にできればいいが、大変だと思われる。

委員 : さまざまなことが書かれており、読んでいてわかりづらいところがある。
私の子どもは今10歳で、10年後には20歳になる。それを考えると非常に重要な10年であると思う。住む人が中心というお話はまさに大切な話だ。

座長 : おおむねご意見を頂戴した。素案を基にご意見を踏まえ、最終答申案をまとめていきたい。

(3) 伏見区基本計画の愛称について

・事務局より資料4の説明

事務局(伏見区副区長): 補足だが、区役所で検討するなかで、将来像である「伏見ですむ」を生かした言葉か、「共汗」を表した言葉にしてはどうかという意見があり、事務局推薦の7つが選ばれた。

委員 : 現計画の愛称があれば教えていただきたい。

事務局 : 愛称はないが、キャッチフレーズは「水と緑と温もりでひらく^{まち}都市—伏見」だ。

委員 : 愛称とはどういうものになるのか。

座長 : 区民の皆さん向けに配るものの表紙に入るような、短くまとまったもの。「～プラン」というような。

委員 : 71番と72番を引っつけて、「皆でつくる すむまち伏見」ではどうか。

座長 : 愛称案の75番となるご意見をいただいた。「皆」は、ひらがなで「みんな」にもできるが漢字でいいだろうか。

委員 : 「みんな」なのか、「みな」なのか。

座長 : 漢字にして、読み方は読む人に任せてはどうか。ご異議がないようなら、75番でいきたい。

—— (異議なしの声) ——

では愛称は「皆でつくる すむまち伏見」とさせていただきます。

委員 : 来年 80 周年の際に、ここまでやったという 1 年目の反省、総括等を次にどのように反映させていくのか。計画を見守るだけでなく進めていけるよう、意見があれば聞き、修正していくということもお願いしたい。

座長 : 今後の推進、実施にあたっての方針と考える。
今日いただいた意見を踏まえて修正をさせていただき、私が責任をもってまとめ、区役所に答申したい。

4 閉会

事務局 : 伏見区役所としては座長からの答申を受け、速やかに計画を決定し、年度内に公表したいと考えている。策定委員会は本日終了となるが、皆様方には今後とも新たな基本計画の下、伏見区政の推進にご支援、ご協力をお願いしたい。
これをもって本日の策定委員会を終了させていただく。